「産みの苦しみと大変革の時」：ハマス高官１０・７とその影響について語る

Mondoweis のインタビュー　２０２４年１０月７日、脇浜義明訳、田中一弘補訳　＊脚注はすべて訳注

ハマスの上級指導者が語る 10 月 7 日とその後

Mondoweise の独占インタービューで、ハマス高官のムーサ・アブ・マルズークはアル・アクサ洪水作戦の目的とその成果、国際的パレスチナ連帯、イスラエルのガザ・ジェノサイドの一年間の次について語った。

編集者注：ムーサ・アブ・マルズークはパレスチナ人政治家で、１９９２年から１９９６年までハマス政治局の初代議長を務め、１９９７年1月から２０１３年４月までハマス政治局の副議長を務め、その後テヘランで殉死したイスマーイール・ハニーヤに席を譲った。アブ・マルズークはパレスチナ政治の重要人物で、数十年間ハマス運動で活躍、今も中心的役割を担っている。

以下のインタビューは9月２７日と１０月３日にＥメールを使って行ったものである。

モンドワイズ編集者：初歩的なことから始めましょう。ハマス運動とはどういうものですか？　あなたはどうしてその運動に加わったのですか？

アブ・マルズーク：イスラム抵抗運動「ハマス」はイスラム教に基づくパレスチナ民族解放運動で、その目的はパレスチナの解放とシオニスト・プロジェクトと闘うことです。運動の基準点はイスラム教が前提であり、目的であり、手段となっていることです。

我々はハイリ・アル・アガ総監が率いるムスリム同胞団[1]のパレスチナで事業を行うグループで、私はアル・アガ総監の副官でした。ムスリム同胞団は湾岸諸国、サウジアラビア、ヨルダン、ヨーロッパ、南アメリカなど多くの国で教育活動やイスラム改革運動を行っていました。私は米国ムスリム同胞団の幹部をしていました[2]。１９８７年、インティファーダが始まったとき、ガザのムスリム同胞団指導部は従来の宗教教育活動に加えて民族解放運動を行う決定をし、名前をイスラム抵抗運動ハマスに変更し、インティファーダに加わり、闘いを主導しました。ガザのムスリム同胞団に共鳴して、パレスチナの外の指導部も、西岸地区の指導部も、動きました。これがハマス誕生のいきさつで、それ故、同志たちは私をイスラム抵抗運動ハマスの創始者の一人と見ているのです。

モンドワイズ編集者：現在のハマスはあなたが創設した頃のハマスと異なっていますか？　今日のハマスの世界向けメッセージは何ですか？

アブ・マルズーク：イスラム抵抗運動ハマスとして発足する前のパレスチナ・ムスリム同胞団は民衆教育、イスラエム教改革、慈善事業、救援活動を行うグループでした。抵抗闘争や政治活動をしていませんでしたし、解放闘争党派の一翼ではありませんでした。それには客観的な理由がありました。一番大きな理由は、これから社会建設をしていかなければならない段階のパレスチナで一定の位置を保つことが困難であったこと、パレスチナ人がパレスチナ、シリア、レバノンと分散していたことです。パレスチナとヨルダンでのムスリム同胞団の活動も、それを仕切ったのはヨルダンのムスリム同胞団指導部でした。しかし、インティファーダが始まったとき、我々はハマスと名乗って他の党派といっしょに戦いました。みんな PLO の指導下で一体となって戦いました[3]。ハマスも PLO の指導下に入りました。

ハマスの世界へのメッセージですが、我々はパレスチナの解放を目指し、暴力と国際決議（国連のパレスチナ分割決議）で奪われた土地とその土地から追放されたパレスチナ人の解放のために戦うというメッセージです。我々が望んでいるのは正義と自由だけです。我々は西側強国、とりわけ米国の意図、彼らが国際政治を牛耳っている現実をよく知っています。我々の土地に居座り、我々の土地全体を占領しているイスラエルを彼らは支援しています。ハマスはＰＬＯが掲げるビジョン、ガザ回廊と西岸地区を領土とし、エルサレムを首都とする独立パレスチナ国家

---

[1] 後にアル・アガはハマスの初代指導者となった。

[2] アブ・マルズークは１９８２年に米国へ留学。コロラド大学で修士号、ルイジアナ工科大学で博士号を修得した。

[3] 当時 PLO はチェニスにいて、海外から連絡を取り合っていたかもしれないが、インティファーダは PLO の指導で行われたのではなく、パレスチナ人の内部蜂起であった。インティファーダに手を焼いたイスラエルはオスロー合意という懐柔策で PLO に武装闘争路線を放棄させて、暫定自治政府を作らせて、イスラエルの下請け機関のようなものにした。アル・マルズークの発言にはパレスチナの分裂を回避して民族統一を願う気持ちが反映しているようだ。

樹立に同意し、それに合わせてパレスチナ人の帰還権の実現を要求しています[4]。我々はすべてのパレスチナ・コミュニティの人々と一緒に占領からの解放と独立国家実現を目指して戦っています。我々は国際社会がこの目的を理解して協力・支援してくれることを求めます。この目的の実現はイスラエル占領者を退却させないと実現できないことを理解していただきたいのです。

モンドワイズ編集者：去年の１０月７日のアル・アクサ洪水作戦について説明してください。何が目的で、それは実現できたのですか？

アル・マズルーク：アル・アクサ洪水作戦はアル・カッサム旅団の戦士グループが行った軍事行動で、大体１２００人ほどの優秀な戦士から成り立っています。この作戦の目的は、２００７年以来ガザ回廊を包囲しているガザ師団（第１４３ファイア・フォックス師団）と戦うことでした。西岸地区や外国のレジスタンス・グループにも参加をもとめ、そのレジスタンス軸の目標は次の５つです。

１．エルサレムを首都とする独立パレスチナ国家の樹立。

２．エルサレムと聖地の破壊やユダヤ化の阻止。

３．イスラエル刑務所に収監されているパレスチナ人の解放。

４．ガザ封鎖の解除。

５．パレスチナ人が自由で尊厳ある生活をできるようにすること。選挙を通じて自分たちの指導部と未来を決定する政治主体となるようにすること。

しかし、ハマス指導部が予期しなかった驚くべきことは、作戦開始後数時間も経たないうちに、戦車、装甲車、飛行機、電子器具、高度な偵察システムを有していたにもかかわらず、ガザ師団があっけなく崩壊したことです。我々は軽火器とおんぼろ車両しかなかったのに。ただ、我々は厳しい訓練で強靭になった戦士で、士気が高く、奪われた自由と権利を取り戻す正義の戦いをやっているという自覚で抑圧者に挑んだのです。敵は我々が予期しなかったような混乱に陥りました。我々はキブツやモシャブなどの入植地に入り、さらに進んで、スデロト・ラハトに到達し、ガザ回廊から４０ｋｍ離れた地点にまで進みました。この敵の混乱に乗じてたくさんの人々や党派の戦士たちが境界線を越えてイスラエルに入り、軍人や民間人のイスラエル人を捕虜として捕らえました。中には入植地の所持品を持って捕虜になる人もいました。この有様はハマスが予期しなかったほどあっけなくガザ師団が崩れたから生じたのです。

成果については、予期以上で、何点か挙げますと、

１．ほとんど忘れ去られていたパレスチナの大義が復活して、世界中がパレスチナの大義と我々の国家、自由、未来を求める正しい要求を意識するようになったこと。

２．世界中がイスラエルの正体 ― 野蛮性とパレスチナ人絶滅目的と侵略的的野心―を知ったこと。そのために、国連総会決議、国際司法裁判所や国際刑事裁判所の判決が生まれ、国際的なイスラエル非難の声が高まったのです。

モンドワイズ編集者：2023 年 10 月 13 日の『ニューヨーカー』とのインタビューで、あなたはあなた自身もアル・アクサ洪水作戦に驚き、それが成功したことにびっくりしたと言いました。１０月７日当時あなたはイスラエルの反撃についてどう思いましたか？　その時あなたが思ったことと、その後実際に起きたことの間には違いがありますか？

アル・マズルーク：たった数百人規模のアル・カッサム旅団戦士の作戦で、イスラエルの地域支配計画が崩れました。イスラエルが中東地域と湾岸諸国をイランから保護するという主張が崩れたのです。中東をイスラエル支配で統合するという計画を 10・7 作戦が挫折させたのです。

ハマスが設定した目標については、その実現の方向が固まり、我々民族の願望であるパレスチナ国家樹立が実現の方向へ進み出し、一方シオニストの野望は、巨大な軍事力と経済力があり、米国の支援もあるにもかかわらず、実現が遠のいています。そうです、イスラエルは、ハマスの政治的指導部も知らなかったようなアル・カッサム旅団の独自の作戦の不意打ちを食って狼狽したのです。先ほども言ったように、本当に驚いたのは、ガザ師団の脆さ

---

[4] これは１９８８年にＰＬＯが、それまでの入植者シオニストを除いて、イスラム教徒、キリスト教徒、ユダヤ教徒が共存する民主的世俗国家を作るためにシオニスト国家イスラエル打倒という路線から方向転換して、イスラエルと共存するパレスチナ国家作りを宣言したもの。帰還権は一応口にはしているが、難民の中から生まれたハマスほど帰還権に固守していない。

と、イスラエル軍の対応の無能さと、イスラエル人の間に恐怖、生存の恐怖を広げた大混乱が起きたことです。このためイスラエルは無分別な反応をしました。あと先を考えず、やみくもにパレスチナ人を殺害し、追い払い、歴史的パレスチナを超えて他のアラブ国、シリア、レバノン、イエメンにまで戦火を拡大しました。

アル・アクサ洪水開始時の私の予測とその後の事態の展開との間に違いがあったかという質問についてですが、正直言って、私はシオニストの背景や狂信的ユダヤ人のメンタリティを知っていますから、イスラエルの過剰反応を予測していました。私は旧約聖書を何回か読み、シオニズム運動の歴史を勉強したのです。ただ、米国がここまでイスラエルに武器・弾薬を提供する残酷さを発揮し、国際舞台でイスラエルを庇うとは思いませんでした。私は米国社会で暮らした経験があります。米国社会を知っているつもりでしたが、たぶん社会と政治とはまったく異なるのでしょうね。

モンドワイズ編集者：あなたはアル・アクサ洪水作戦に西岸地区のグループの呼応が拡大することを期待していましたか？　西岸地区の民衆が蜂起すると期待しましたか？

アル・マズルーク：ええ、西岸地区の兄弟の立ち上がりの拡大を期待しましたが、それを妨げた要因が二つあります。一つはマハムード・アッバスの腐敗政権の存在と、もう一つは西岸地区の狂信的ユダヤ人入植者が軍の保護を受けて住民を攻撃していることです。しかし、必ず西岸地区のレジスタンスは拡大すると思います。

モンドワイズ編集者：イスラエルのガザ・ジェノサイドがもう１年間以上続いています。レジスタンスを支持するパレスチナ人の多くがガザだけにレジスタンスの重荷を背負わせるべきじゃないと言っています。あなたはどう思いますか？

アル・マズルーク：その人たちの言うとおりです。他の地域のパレスチナ人の立ち上がりを期待しています。エルサレムを首都とする独立パレスチナ国家を作りたければ、シオニストと戦うという選択肢しかありません。

モンドワイズ編集者：ジェノサイド後のレジスタンスはどうなりますか？　ガザは大部分破壊されているので、今後ガザのレジスタンスは大きく弱まるだろうという意見があります。西岸地区では入植地拡大が続き、北部のレジスタンス・グループに対するイスラエル軍の残酷な軍事弾圧があり、自治政府（PA)は相変わらずイスラエル占領軍の下請け機関になり下がったままです。このような内部の阻害要因がある中でパレスチナ解放闘争を勧めるにはどういう可能性があるのですか？

アル・マズルーク：あなたの事態の描写は正確ですが、１００年の歴史を振り返ってください。何回も解放運動とレジスタンスに挫折がありましたが、そのたびにパレスチナ人はシオニズム運動と闘う新しい要素を作り出しました。１９２７年の革命的戦い[5]の後は１９３７年の革命的戦い[6]。３６年の後は１９４７年戦争、その後はパレスチナ・フェダーイン反乱が続き、やがてパレスチナ解放機構（PLO)とパレスチナ解放軍が形成されました。１９８４年 PLO がレバノンから追い出されてイスラエルへのゲリラ闘争の基盤を失った後は、１９８７年民衆蜂起の第一次インティファーダが起き、２０００年には第二次インティファーダが起きました。それから２００８年（第一次ガザ戦争)、２０１２年（第二次ガザ戦争)、２０１４年（第三次ガザ戦争)、２０２１年[7]と戦争がありました。パレスチナ人は犠牲を覚悟しています。宗教と郷土を守るためには子どもの犠牲も覚悟しています。

モンドワイズ編集者：ジェノサイドがほぼ一年間続いているのに、国際社会は罪のない民間人殺害を止めることが出来ませんでした。パレスチナ人は同胞のアラブ諸国とその指導者たちが狂気の殺戮を真剣に止めようとしていないと非難しています。あなたは国際社会の反応をどう考えますか？　国際社会に何を期待しますか？　彼らの動きや意見は現実に応えるものだと思いますか？

アル・マズルーク：中東の諸問題に関しては米国の責任が一番重いことを理解しなければなりません。米国はイスラエルが米国の意図に逆らった場合でもイスラエルを支援します。様々な兵器を供給し、国連やその他の国際舞台でイスラエルを庇います。

---

[5] 第７回パレスチナアラブ議会、パレスチナ住民の武装集団「緑の手」誕生、嘆きの壁事件等々を指して言われている。

[6] ユダヤ人移民停止を求めるアラブの反乱。

[7] ハラム・シャリーフでイスラエル当局とパレスチナ人の衝突。ハマスとイスラム聖戦がイスラエルへロケット攻撃、イスラエルは空爆。１０日間の戦争の後エジプトの仲介で停戦。

中東の国々は二つのカテゴリーに分けることができます。一つは金持ちの国ですが、その金は米国銀行の中にあって、それを通じて米国はそれらの国をコントロールしています。もう一つは米国らの国際援助に依存している国で、こちらも米国のコントロール下にあります。どちらの国々も米国の意図に沿った行動をします。

それ以外の世界の国々は米国に逆らうことをしません。ヨーロッパの場合は米国の共犯です。米国の影響圏外の国、例えばロシア、中国、南アフリカ、イランは国際法上でまともな態度で、良識的です。我々はこれらの国に感謝しています。パレスチナ人はこれらの国の努力を好評価し、その姿勢を喜んでいます。

モンドワイズ編集者：ジェノサイドの真っ只中の７月、ハマスとファタハは北京で和解して民族統一する合意に調印しましたね。あなたも出席していて、「我々は統一を誓う」とスピーチで言いました。この和解に関して、パレスチナ人の多くは、過去２０年間に同じような和解や統一が何度もあったが、結局何の進展もなかったことから、また同じことの繰り返しだと、覚めた目で見ていました。単なる象徴的ジェスチュアと見るパレスチナ人が多かった。

北京での儀式は別にして、現実的にはハマス、ファタハ、その他の党派の間では、民族統一やパレスチナの将来像について、話し合いが行われているのですか？　ジェノサイドの中で和解と統一はどういう戦略的役割を果たすと思いますか？

アル・マズルーク：パレスチナ人は絶滅の危機に直面し、イスラエルがガザで動くものは何でも攻撃の的にしています。生活にとって不可欠なものすべて、教育機関、医療機関などを次々と破壊しました。西岸地区ではパレスチナ人の土地を奪い、入植地が悪性癌のように拡大しています。１９４８年領土内のパレスチナ人への支配統制が強まり、追い出そうと狙っています。それ故に、我々はこの分裂状態を修正しようと長年働いてきたのです。民族の統一こそがすべての戦略の基礎になります。だから、我々は妥協するところは妥協して、民族和解に何回か漕ぎつけたのです。しかし、絶えず米政府とイスラエル占領者が我々の統一にレッド・ラインを引いて、潰したのです。

中国政府はパレスチナ人を熱心に助けようとしてくれ、そのおかげで我々は北京宣言に調印しました。我々は他の党派と協力して統一を実現しようとしましたが、常に米国とイスラエルがそれを妨害し、ファタハと PA を脅迫したのです。

モンドワイズ編集者：国際的パレスチナ連帯運動の目標について質問します。ガザのほとんどが破壊された現状で、停戦要求という目標はまだ意味がありますか？　それとも連帯運動の要求を変えた方がよいのでしょうか？

アル・マズルーク：日常的な弾圧を受けながら、人道的正義を求め、戦争犯罪を非難する国際的パレスチナ連帯運動に心よりの感謝を表明します。米空軍パイロットのアーロン・ブッシュネルがイスラエルのジェノサイドとバイデン政権のイスラエル支援に抗議して焼身自殺をする事態にまで連帯運動がなっています[8]。我々は、パレスチナ人民とともに、彼と彼の家族に、そして世界の自由を愛してパレスチナの大義に連帯してくれるすべての人々に、深い感謝を申し上げたい。

ジェノサイドを止めることは中心的目標で、それを求める運動は続けなければなりません。イスラエル占領軍は毎日、１日の休みもなく、虐殺を行い、それを他のことを差し置いた先決事項としている。それに、ガザ・パレスチナ人への封鎖を廃止する取り組みは絶対的に必要です。数十万人の人々が家を失い、冬が近づいてくるし、きれいな水も電気もその他通常生活に必要なものが欠乏している状態です。封鎖を廃止して生活必需品をガザに搬入することが緊急的に重要です。さらに、国際世論の力でイスラエルの戦争犯罪を追及し、彼らが裁きを逃れないようにすべきです。このままだと彼らは中東と世界を地球上の人間すべてを害する第三次世界大戦に引きずり込みます。彼らを止めることは人類の安全のために必要です。

モンドワイズ編集者：今週ベンジャミン・ネタニヤフ首相は国連総会で演説し、ハマスに降伏を要求し、イスラエルは「完全勝利」を実現するまでガザへのジェノサイド攻撃を続けると宣言しました。これに対してあなたは何と言いますか？

アル・マズルーク：ネタニヤフは我々の降伏を望むでしょうが、我々は人民を守るレジスタンス運動で、降伏するわけがありません。レジスタンスを続けます。仮にハマスが降伏したと仮定しても、シオニストはジェノサイド

---

[8] ２０２４年2月２５日、ブッシュネルはイスラエル大使館前で抗議の焼身自殺をした。自分の体に火をつけて、「これは植民地支配者の手によってパレスチナでパレスチナ人が経験していることだ」と宣言した。警備のシークレットサービスがブッシュネルに銃を向けていたという。

をやめません。何故なら彼らの狙いはハマスではなく、ハマスも含んだパレスチナ人なのです。ハマスがあまり強力な存在感がないエルサレムや西岸地区でイスラエルがやっていることを見れば、それがよくわかります。数百人を殺害しています。

停戦合意に関しても、我々が合意しても、ネタニヤフが停戦の妨害を続けています。停戦交渉仲介国はハマスの主張の正しさを見たはずです。問題はイスラエルの占領なのです。

モンドワイズ編集者：今後の数年先の計画はどういうものですか？　停戦合意が達せされようと、達成されないにせよ、「デイ・アフター」へのハマスの政治的目的は何ですか？

アル・マズルーク：ハマスはパレスチナ人民の不可欠な部分です。前の選挙では圧倒的勝利をしました。ハマスは解放、イスラエルに占領されている郷土への帰還、イスラエル占領の終焉というパレスチナ人の目標の達成を誓っています。この目標はハマスの中核です。いわゆる「デイ・アフター」については、ハマスはパレスチナの政治を構成するすべての党派と協力し合って、一つの党派に偏らない、民族統一実務家政府を期間限定で形成します。その政府の第一目的は人民に安心を提供し、戦後の混乱を立て直し、出来るだけ短期間で破壊跡を再建することです。落ち着いたら選挙の準備をし、選挙の結果をみんなが尊重するようにすることです。

その一方で我々は戦争が残した問題に丁寧に取り組みます。親を亡くして孤児となった子どもが何万人もいます。手足をなくした人が何千人もいます。家のない人や他にいろいろ問題を抱えた無数の人々への対処も必要です。この人道的災害に取り組むうえで国際社会の援助が必要です。我々は１９４８年以降ずっと我々側に何の落ち度もないのに迫害され、破壊されてきました。シオニストの自分勝手な欲望とそれを認めた国際社会の犠牲になってきました。

モンドワイズ編集者：米国はイスラエルが公言するハマス殲滅を支持し、米国としてもハマスをテロ組織と規定しています。将来ハマスが一つの政治団体でパレスチナ人の指導部の一部と認められるようになると思いますか？この一年の出来事がどの程度その可能性に影響すると思いますか？

アル・マズルーク：ハマスは存続し続けます。イスラエル占領軍はハマス殲滅をできませんでした。しかし、彼らはハマス殲滅という目標を悪用して民間人を大量殺戮し、ガザを破壊しました。米国政府がその殺戮と破壊の主要パートナーだと我々は考えています。バイデンが自ら軍事会議を指導し、ブリンケンが食糧や飲料水のガザ搬入を妨害する犯罪を行うネタニヤフを政治的に保護しました。それに子ども、女性、お年寄りの頭に降りかかる爆弾は米国製なのです。

我々にとって重要なことはパレスチナ人民に認めてもらうことです。我々の正当性はパレスチナ人民からの認知で、米国政府やその他の外国から認めてもらうことではありません。我々はパレスチナ人民の独立、自由、尊厳のために戦っています。パレスチナ人民は他国の世話を受ける属民ではありません。

モンドワイズ編集者：こうして話し合っている間にも、イスラエルのレバノン爆撃が続いています。犠牲者の数がうなぎ上りです。ヒズボラとレバノンは危機に直面しているにもかかわらず、彼ら「支援前線」はガザ・ジェノサイドが続く限り戦いをやめないと言っています。また、イエメンのアンサール・アッラー（フーシ派）のようなグループも、乏しい軍事資源を使ってイスラエルに虐殺をやめよと圧力をかけています。

あなたはヒズボラなど幅広い「レジスタンス軸」のパレスチナ支援は十分だと思いますか？それとも、ジェノサイドのもっと早い段階でイスラエル攻撃をやってほしかったと思いませんか？

アル・マズルーク：我々パレスチナ人をジェノサイドしているのは、先祖が第二次世界大戦でヨーロッパ人、特にドイツ人からジェノサイドされたグループです。これは本当に大きなアイロニーです。パレスチナ人が彼らの先祖を差別・虐殺したわけではないのです。ジェノサイド被害者はジェノサイドに反対するべきで、弱者に対してジェノサイドをやるべきではありません。

我々はこの戦争で我々を味方してくれるすべての人々に、その規模の大小にかかわらず、感謝しています。勇敢にシオニスト占領軍に立ち向かって我々を支援してくれます。現在、レバノンが人道的・道徳的に正しい立場にたったために攻撃を受けています。

支援前線がもっとはやく活動すべきだったということは問題ではありません。問題なのは、ジェノサイドを見ながら沈黙するかあるいはジェノサイド側に立つことです。その人たちは、そのうちイスラエルの悪が自分たちをも害することを意識して、自分たちの人間性と価値観を見直すべきです。

モンドワイズ編集者：イランや「レジスタンス軸」はアル・アクサ洪水作戦を知らされていなかったために、それを支援する活動の準備が整える時間的余裕がなかったと思っているのではありませんか。例えば、ヒズボラの「支援前線」は、故ハサン・ナルララ書記長がイスラエルの報復でレバノンが大きく破壊されるのを心配して、初期の攻撃は比較的限定的だったように思えるのですが。そもそも、何故あの時期にアル・アクサ洪水作戦を敢行したのですか。作戦は「レジスタンス軸」にもっとパレスチナの大義にコミットさせる意図ではなかったのですか。

アル・マズルーク：アル・アクサ洪水作戦はパレスチナの大義による行動で、パレスチナのレジスタンスが誰とも相談しないで、独自で決定したものです。イスラエル占領軍だけに向けたもので、他の意図はありませんでした。

我々は目の前で過激主義イスラエル政府が自分勝手な形でパレスチナ問題を消し去る政策を展開しているのを見ました。入植地をどんどん拡大し、エルサレムをユダヤ化し、アル・アクサ・モスクと旧市街のキリスト教とイスラム教の聖地を支配して、もはやパレスチナの大義なんかないようにしようとしていました。ガザ封鎖は１７年間も続き、イスラエルの刑務所にはたくさんのパレスチナ人が収容されています。４０年以上も収監されているパレスチナ人もいます。そのうえ、中東地域のアラブの中心的な国と国交正常化を行って、中東にはパレスチナ問題なんか存在しない状況を作り出そうしていたのです。そういう状況を変えるために、我々はガザ封鎖するイスラエル軍に奇襲をかけたのです。

モンドワイズ編集者：それで、この一年間の犠牲と戦いはパレスチナの未来、いやもっと広く中東地域の未来について何を物語るのですか？我々はどこへ行くことになるのですか？　ガザはどうなるのですか？

アル・マズルーク：我々は重大な歴史的局面にいます。今、まさに歴史が作られているのです。１０月７日以前にあった現実は１０月７日以後には同じままではなくなります。今は痛みを伴う歴史的出産というべき大変化のときです。その変化はパレスチナだけに留まらず、中東地域、そしてグローバル体制にも変化が起きるでしょう。この変化の過程で個々の人やグループが活動し、正しいことをやった ― 抑圧された人々の側に立って活動したという記録を歴史に刻むのです。

モンドワイズ編集者：最後に、国際社会とパレスチナ解放を支援する世界の人々へのメッセージを言ってください。

アル・マズルーク：私が国際社会に言いたいことは、アル・アクサ洪水作戦の動機の一つは、国際社会がシオニストのパレスチナの大義を一掃するのを沈黙して傍観するかそれに同調する状態にあったことです。この我々の観察は、国際社会はイスラエルのガザ・ジェノサイドを１年間目撃したのに、それを止める実際的で有効な手立てを何一つしなかった事実で、その正しさが証明されました。１年間ガザで虐殺をやってきたネタニヤフは国連総会演説で、まだそれを続けると言いました。国際社会がネタニヤフの言動に沈黙することは、彼と同じような残虐な暴君が誕生する土壌を耕したことを意味し、そうなれば人類のみんながその被害を被ることになります。しかし、まだ、国際社会が人間性と倫理を再生させる時間があります。我々のためだけでなく、自分のためにも、人間性と倫理を回復すべきです。

パレスチナの解放を支援する自由を愛する人々については、パレスチナ人はあなた方の活動をちゃんと見ています。あなた方の抗議運動がシオニスト占領軍に脅威を与えています。だから、抗議運動を続けてください。闘いを続けてください。シオニスト占領者の真実の正体を明らかにし、彼らの犯罪を世界中に知らせ、彼らと彼らを支援する国々に圧力をかけてください。彼らを野蛮人としてのけ者にしましょう。あなたの国の政府にイスラエル政府と絶交するように圧力をかけてください。パレスチナの子どもたちはあなた方の活動を必要としているのです。